

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
栄養指導論 Nutrition Education		1年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	講義	選択	(栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養学、栄養指導論実習Ⅰ、栄養指導実習Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
駒場啓子	福祉棟研究室	月・火・水・木曜日 9:00～16:00 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
<p>栄養指導論は、生活の中で栄養学の実践と応用をはかるための教育方法論である。栄養指導を行うために必要な栄養教育・栄養指導の概念および栄養教育の方法論として行動科学について理解し、栄養教育・栄養指導の基礎知識を習得する。さらに、栄養教育・栄養指導を行うために必要な情報収集および情報処理について理解する。</p> <p>また、ライフステージ・ライフスタイル別に栄養教育・栄養指導の特性および留意事項を学習し、個々の対象者に応じた栄養教育・栄養指導の知識・技術や手法について習得する。</p>				
授業の目標				
<p>①栄養教育・栄養指導の概念について説明できるようにする。②行動科学理論およびカウンセリングの基礎と栄養教育・栄養指導への応用に関する知識を身につけられるようにする。③栄養教育・栄養指導に必要な情報収集と情報処理について理解し、活用できるようにする。④栄養教育マネジメントの目的・意義および一連の過程について（PDCAサイクルを含む）習得できるようにする。⑤ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育・栄養指導の特性、実態および問題点を把握し、科学的根拠に基づいた栄養教育ができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>テキストを中心とした講義形式で授業を進める。授業ごとに口頭試問を実施し、回答が不十分な場合には次回までの課題とする。課題ならびにレポート提出（熟考したうえでの）を必須とする。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>①栄養教育・栄養指導の意義と特性および現在必要とされている栄養教育の課題について説明することができる。②食行動変容のための行動科学の理論モデルを理解し、応用することができる。③食に関するエビデンスのある情報を収集し、活用することができる。④健康づくりのための自己管理能力形成の支援方法を習得することができる。⑤ライフステージ・ライフスタイル別に、個々の対象者に応じた栄養教育・栄養指導の知識・技術や手法について習得することができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明			
第2回目	栄養指導・栄養教育の概念			
第3回目	栄養指導・栄養教育の歴史			
第4回目	栄養教育の場			
第5回目	栄養士制度と関係法規			
第6回目	栄養教育のための基礎知識（食品成分表、食品の組み合わせ）			
第7回目	日本人の食事摂取基準（2015年版）			
第8回目	日本人の食事摂取基準（2015年版）			
第9回目	行動科学と教育			
第10回目	食行動変容と栄養教育			
第11回目	栄養マネジメント			
第12回目	栄養教育のためのアセスメント（栄養アセスメントの意義・目的、身体的栄養状況の指標）			

第13回目	栄養教育のためのアセスメント（栄養状態に影響を及ぼす諸要因の調査）
第14回目	栄養教育のためのアセスメント（情報収集の方法）、試験
第15回目	栄養教育計画
第16回目	栄養教育の方法（学習形態と方法の選択・組み合わせ、教材・媒体）
第17回目	栄養教育の方法（カウンセリング、学習段階の発展）
第18回目	栄養教育の実施（組織づくりと連携、実施者の技術）
第19回目	栄養教育の評価（行動科学による栄養教育の実施）
第20回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（妊娠期）
第21回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（授乳期）
第22回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（乳児期）
第23回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（幼児期）
第24回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（学童期）
第25回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（思春期）
第26回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（成人期）
第27回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（老年期）
第28回目	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（障がい者）
第29回目	食環境づくりと健康教育（食物のアクセス面での展開）、試験
第30回目	栄養教育の国際的動向（先進諸国・開発途上国における栄養教育）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の事柄で判断する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。分かりにくい点があれば積極的に質問する。
レポート	20%	S=90-100 A=80-89 B=70-79 C=60-69 D=59-0 Sのレポートは、詳細に課題を探究し、内容構成がしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	・S=90-100 ・A=80-89 ・B=70-79 ・C=60-69 ・D=59-0
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：「栄養指導論」（健帛社）、「日本人の食事摂取基準（2015年版）」（第一出版）、『食事バランスガイド』を活用した栄養教育・食育実践マニュアル（第一出版）

履修上の留意点・ルール

・「授業への参加態度」に準ずる。授業中の飲食は禁止。・携帯電話の使用は禁止（受信、送信、その他使用）。・緊急の場合は教員に申し出ること。